

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	平成 25 年度長久手市文化の家 絵画コンクール(高校生・一般の部)
日 時 / 場 所	平成 26 年 1 月 15 日(水)～19 日(日) 【第1会場:展示室】10 時～19 時(最終日は 17 時まで) 【第2会場:中央図書館ギャラリー】9 時～17 時(最終日は 16 時まで)
事 業 の 種 類	育成事業
出 展 者	【第 1 会場】大賞 1 名、金賞 2 名、銀賞 2 名、佳作 10 名、入選 13 名、無鑑査 1 名 【第 2 会場】入選 34 名
内 容	絵画コンクール出品者の絵画展示
入 場 者 数	【第 1 会場】649 名 【第 2 会場】441 名
チ ケ ッ ト の 種 類 及 び 価 格	チケット・整理券なし 入場無料
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・かなりレベルの高い作品もあり、楽しめた。(78 歳／男性) ・今回の展示会はとてもよく来年もまたやってほしい。(17 歳／男性) ・みんな個性的な構図だった。色も良かった。(75 歳／女性)
モニター評価	なし
担当者コメント	<p>昨年度、審査員との協議の上、大人は描く対象や世界が確立されている人が多いため、あえてテーマを設ける必要がないとの理由から、テーマをなくすことにより、応募者を増加させることに成功した。今年も同じくテーマを設定せず、昨年度並みの数(112 名)の応募があった。</p> <p>今年の審査は、純粋な画力を重視した審査ではなく、設定、アイデア、うったえかける力などを重視しているようであった。作品展では賛否両論あったものの、見る人を楽しませる、夢のある催しになったように感じる。</p>
備考	<p>テーマ:無し</p> <p>応募者 112 人(内、受賞・入賞者 59 人)</p>

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	第10回吹奏楽フェスティバル in NAGAKUTE
日時 / 場所	平成26年1月26日(日)午後1時開演 森のホール
事業の種類	普及・啓発事業
出演者	長久手市立長久手中学校吹奏楽部、長久手市立南中学校吹奏楽部、長久手市立北中学校吹奏楽部、愛知県立長久手高等学校吹奏楽部、栄徳高等学校吹奏楽部、愛知県立大学吹奏楽サークル、吹奏楽団響、Polygon Brass(ゲスト、愛知県立芸術大学生及び卒業生による金管五重奏団) 計8団体(合計250名)
内容	【第1部】団体別演奏 【第2部】合同演奏 指揮:長尾洪基 海を越えた握手(J.P.スーザ作曲/F.フェネル編曲) セドナ(S.ライニキー作曲) ヒットソング・プレイバック・90's(山里佐和子編曲)
席設定	517席
入場者数	603人
入場率	116.63%
整理券配布日	平成25年12月12日(木)
チケットの種類及び価格	無料(整理券)
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・液晶画面を点灯しての撮影、電子シャッター音は禁止してください。家族が写真を撮りたい気持ちは理解できるので他人に迷惑をかけない程度には規制してください。演奏している子どもたちにも失礼だと思います。(市内・40代・女性) ・響の演奏が楽しそうでよかった。栄徳かっこよかったです。(市内・50代・女性) ・市がまとまっている感じがして素敵でした。ゲストや大学生なども一緒になってステージを盛り上げているところがとても良かったと思う。(市外・40代・女性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全員合奏はとてもよかった。ずっと続くとよいです。(教育委員) ・演奏中に話したり、音を鳴らしたり、フラッシュを使った写真撮影などマナーの悪さが目立った。(複数あり) ・こんなすばらしいフェスティバルが毎年行われていることを知りませんでした。客席と舞台が一体化しているようでした。(市民モニター)
担当者コメント	2005年から継続して開催してきた事業。今回で10回目を迎えた。今回は例年参加している団体に加え、2013年4月に新設された北中学校吹奏楽部が参加し、総勢250名の参加となった。今年からピアノ使用を不可としたため、250人全員が合同演奏の舞台に乗ることができた。しかし、団体別演奏の制限時間を大幅に超える団体、観客のマナーの悪化、整理券についての出演関係者への周知不足等、規模が大きくなるにつれて課題も増加している。運営体制も含め、何らかの変革が必要であると感じられる。
備考	1/25(土)にゲストによるクリニックを開催した。(対象パート:トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバ 計47名参加)

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	長久手演劇王国 vol.14 日本劇作家協会東海支部プロデュース 「どしのぎ祭」～劇作家が頭と体を使って凌ぎを削る～
日時 / 場所	平成 26 年 1 月 31 日 (金) 19 時 30 分開演 風のホール 2 月 1 日 (土) 13 時開演 風のホール 2 日 (日) 13 時開演 光のホール
事業の種類	教養・鑑賞事業
出演者	日本劇作家協会東海支部(天野順一朗、鏡味富美子、鹿目由紀、刈馬カオス、品川浩幸、台越竜太郎、渡山博嵩、中内こもる、はせひろいち、長谷川彩、平塚直隆、舟橋“委員長”慶子、宮谷達也)、南参(yhs)、武田宜裕(INAGO-DX)、煉瓦ホリオ(どっかんプロ・「大喜利ライブ禁じられた遊び」) ゲスト:坂手洋二(2/1・2/2)、諏訪哲史、柴幸男、安住恭子(以上 2/1 のみ)、サリngROCK、ごまのはえ(以上 2/2 のみ)
内容	演劇
席設定	1/31:234 席、2/1:226 席、2/2:84 席
入場者数	1/31:126 人、2/1:149 人、2/2:40 人
入場率	1/31:53.85%、2/1:65.93%、2/2:47.62%
チケット発売日	一般 12 月 14 日(土) フレンズ会員 12 月 7 日(土)
チケットの種類及び価格	[前売・当日] 1公演券 1/31 一般・フレンズ:1,000 円、 2/1 一般・フレンズ:2,000 円、2/2 一般・フレンズ:1,000 円 3日間通し券 一般・フレンズ:3,000 円 全席自由
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・劇王再開を心待ちにしている、お願いしたい。今回も新しくステキだなと思う作家がまた見つけられて良かった。(21 歳/女性) ・去年の劇王に来させていただいてすごく楽しかったが、今回は、劇作家のアドリブ劇も見られてさらに楽しかった。いろいろなところでこういうイベントが開かれるといいと思う。(34 歳/女性) ・作家の仕事っぷりが垣間見られて興味深かった。中部地方にも新しい賞ができて、俳優達の励みになればいいと思う。(年齢不詳/女性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・品性を疑う場面があって驚いた。驚きを隠せない。
担当者コメント	<p>今回は、10 回続いた「劇王」シリーズに一旦終止符を打ち、次の劇王まで「しのいで」いくためのファン感謝祭的な位置づけの企画である。東海支部顧問である北村想があて書きで書き下ろした文士劇の上演や、劇作家大喜利、その場で書く短編戯曲などイベントが盛りだくさんであった。〈劇王かてっ!〉のイベントは、教文短編演劇祭(札幌)チャンピオン、中国ブロック劇王が東海支部代表と競う、劇王を想起させるものであった。開催まで演劇ファン・関係者から劇王を望む声が多かったが、観客は、劇王を知る者も含め今回の企画を楽しんでいるようであった。例年の劇王ではないことから入場率の低下が予想されたが、天下統一大会と銘打った前年を除けば、例年おおよそ 40～60% 台であり、大きく下がることはなく、初めての企画のため期待があったと考えられる。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	名演への招待シリーズ 13 ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会～フライブルク・バロック・オーケストラ		
日時 / 場所	平成 26 年 2 月 9 日(日) 15 時開演		
事業の種類	鑑賞事業		
出演者	フライブルク・バロック・オーケストラ		
内容	J.S.バッハ ブランデンブルク協奏曲 第 1 番 へ長調 BWV1046 第 6 番変ロ長調 BWV1051 第 2 番へ長調 BWV1047 第 3 番ト長調 BWV1048 第 5 番ニ長調 BWV1050 第 4 番ト長調 BWV1049		
席設定	521 席		
入場者数	491 人(完売)		
入場率	94.24%		
チケット発売日	一般	10 月 12 日(土)	フレンズ会員 10 月 5 日(土)
チケットの種類及び価格	[前売] 一般:4,500 円、フレンズ会員:4,000 円、学生:3,000 円 [当日] 一般・フレンズ会員:5,000 円、学生 3,500 円		
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本場のバロック音楽が聴けてよかった。(60 代/男性) ・バッハの音楽の真髄をたのしませてもらいました。古楽器と古典奏法が忘れていた音楽をよみがえらせてくれました。(70 代/男性) ・バロック時代の楽器はあまり目にしないので興味深かったです。(40 代/女性) ・とても臨場感のある(舞台の近さを感じさせる)ホールだと思いました。(50 代/男性) ・楽器の説明が欲しかった。(複数件あり) 		
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランデンブルク全曲を長久手で聴くことができ幸せを感じました。(一般モニター) ・今日は若い方から年寄りの方まで幅広いお客様でした。1階席はほぼ満席。(一般モニター) 		
担当者コメント	<p>文化の家が開館以来、不定期に開催してきた名演への招待シリーズ。今回は古楽器演奏の最先端を行くと言われていたフライブルク・バロック・オーケストラによる公演を行った。全曲一度に演奏される機会が少ないバッハのブランデンブルク協奏曲全曲が本格的な団体によって演奏される貴重な公演であることから、公演前に入場券が完売し、高い入場率を記録した。また、愛知県外からのお客様も多く見られた。長久手公演は同オーケストラの日本国内公演の中で最も少ない座席数で公演を行ったため、バロック時代により近い空間で楽しむことができたことも好評につながった点であると思われる。今後も近隣では取り上げられない珠玉の公演を長久手で実施していきたい。</p>		
備考	<p>■関連イベント ガレリアコンサート vol.114「昔の音は新しい?! ～古楽を知ろう!」1 月 11 日(土) 出演:東海バロックプロジェクト バッハはトモダチ! コーナー 1 月 11 日(土)～2 月 9 日(日) 製作:小林大地(長久手市文化の家創造スタッフ)</p>		

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	小学校であーと
日 時 / 場 所	平成 26 年 2 月 12 日(水)長久手市立長久手小学校 平成 26 年 2 月 14 日(金)長久手市立西小学校 平成 26 年 2 月 18 日(火)長久手市立北小学校 平成 26 年 2 月 19 日(水)長久手市立市が洞小学校 平成 26 年 2 月 20 日(金)長久手市立南小学校
事 業 の 種 類	普及・啓発事業
出 演 者	2月12日(水)・14日(金) 尾高詩音里(第1ヴァイオリン/愛知県立芸術大学研究生)、加川由梨(第2ヴァイオリン/同大学学部4年)、橋本歩(ヴィオラ/同大学院2年)、石本卓斗(チェロ/同大学学部4年) 2月18日(火)・19日(水)・20日(木) 寺田康佑(トランペット/同大学学部4年)、坂本勇(トランペット/同大学学部3年)、雨谷華(ホルン/同大学卒業生)、宮原健輔(トロンボーン/同大学卒業生)、モンテロ タケシ(チューバ/同大学学部2年)
内 容	2月12日(水)・14日(金) ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第10番「ハープ」第1楽章 他 2月18日(火)・19日(水)・20日(木) エヴァルド: 金管五重奏曲第3番第1楽章 他
入 場 者 数	長久手市立長久手小学校 4年生 3クラス 90人 長久手市立西小学校 4年生 2クラス 76人 長久手市立北小学校 4年生 3クラス 112人 長久手市立市が洞小学校 4年生 4クラス 160人 長久手市立南小学校 4年生 4クラス 126人 計 564名
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ この1時間はゆめのようであったという間でした。(女子) ・ バイオリンを目の前で見れるなんて思ってなかったのでうれしかったです。(女子) ・ 弦をはじいて演奏するところにもびっくりしました。(男子) ・ 楽器をさわらせてもらったとき、むねがドキドキしました。(女子) ・ 授業で茶色の小びんを勉強しているので、ポリゴンブラスの茶色の小瓶を聴いてすごいと思いました。(女子) ・ 最後の曲(エヴァルド作曲・金管五重奏曲第3番第1楽章)がとても感動しました。(複数件有) ・ また来てほしいです。そしてまたすてきな音楽を聴きたいです。(多数)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで子ども対象に徹するとすれば大部分の児童が興味を引く曲が良いのではないか(教育委員)
担当者コメント	平成 23 年度から実施している小学校でのアウトリーチ事業。初年度から参加小学校が徐々に増加し、今年度は 5 小学校で実施することとなった。今年度も愛知県立芸術大学と連携し、同大学の学生及び卒業生を演奏者として選出した。この事業は、子どもたちに芸術との出会いの場を提供するとともに、芸術大学生に社会と芸術のあり方について勉強する場ともなっている。モニター評価にあるプログラムで取り上げる楽曲について特筆すれば、例年、演奏者には「とっておきの1曲」を 4 年生向けのプログラムに取り入れてもらうように依頼している。子どもたちと芸術の出会いの場において演奏家の本当の姿を見てほしいというねらいがあつてのことである。アンケートでも「最後の曲(とっておきの 1 曲として演奏者が設定した楽曲)が1番良かった」という記述が多数見られ、おおむねこのねらいは達成できたと思われる。大学側からの見学者がおらず、事業評価がなされなかったため、次年度以降連携を強めていきたい。

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	JAZZ 長久手～やっぱりジャズはイイ!
日 時 / 場 所	平成 26 年 2 月 21 日(金)19 時開演 風のホール
事 業 の 種 類	鑑賞事業
出 演 者	土岐英史(アルトサクソ)、合田裕則(ピアノ)、夏目純(ドラム)、加藤雅史(ベース)
内 容	C MINOR How Insensitive In the Wee small hours of the morning It Could Happen to you C JAM BLUES 黒いオルフェ
席 設 定	260 席
入 場 者 数	247 人(完売)
入 場 率	95.0%
チケッ発売日	一般 12月14日(土) フレンズ会員 12月7日(土)
チケッの種類及び価格	[前売] 一般:1,500 円、フレンズ会員 1,200 円、学生 1,000 円 [当日] 一般・フレンズ会員:1,800 円、学生 1,200 円
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・少し短い気がした。もう少し長く演奏して欲しかった。(数件あり) ・安くて、短い時間でクラブの感覚で立ち寄れる気軽さが良いです。近いから言えるのかも。(60 代/男性) ・良質な音楽、良心的な料金。毎回 JAZZ IN THE ROOM でも楽しませていただいています。(60 代/男性) ・いいお酒が飲みたくなりました。素晴らしい演奏に酔いしれました。(50 代/女性) ・サクソの響き、音色に感動!!(60 代/女性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいかもしれませんが、お酒を楽しみながら「ジャズの夕べ」なんてのは企画されませんか…(市民モニター)
担当者コメント	<p>「JAZZ IN THE ROOM」でジャズを身近に感じ、それをきっかけに本格的なライブを体験するという流れを作るために企画した「JAZZ 長久手」。前者に続いて、この公演も完売したことから、ジャズへの関心の高さを感じた。今回は全国的に活躍しているアルトサクソの土岐英史氏を中心としたメンバーで公演を行った。リーズナブルな価格で本格的なジャズを楽しめること、そして何より土岐氏らが生み出すジャズの渋さが好評を受けた。ジャズ関心の高さから、次年度以降も継続して実施していきたい。プレイベントとして長久手市在住の内田修ジャズコレクションのレコード紹介を行ったが、悪天候のため入場数はのびなかった。</p>
備考	2 月 8 日(土)に岡崎市図書館交流プラザ内田修ジャズコレクション協力のもと、関連イベントレクチャー「さあ、ジャズを聴こう!」を開催した。(入場者 32 名/100 席)

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	長久手市劇団座★NAGAKUTE第 25 回公演 ねぼすけさん
日 時 / 場 所	平成 26 年 3 月 8 日(土)19 時開演、3 月 9 日(日)14 時開演 森のホール
事 業 の 種 類	育成事業
出 演 者	長久手市劇団座☆NAGAKUTE
内 容	演劇
席 設 定	309 席
入 場 者 数	3/8:163 人 3/9:281 人
入 場 率	71.84
チケット発売日	一般 12 月 8 日(土) フレンズ会員 12 月 1 日(土)
チケットの 種類及び価格	[前売] 一般:1,200 円 フレンズ:800 円 高校生以下:800 円 [当日] 一般・フレンズ:1,500 円 高校生以下:1,000 円
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し滑舌、声量のバランスを。(69 歳/男性) ・効果音や照明に感動しました。2 時間があつという間でした。(20 歳/女性) ・休憩がないので、疲れた。
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりしたタイトルなのでほのぼの劇かと思ってたら予想を裏切るおもしろさでした。役者がしっかりしていて安心して見ていられた、という声を聞きました。 ・地元のアマチュア劇団の練習の成果が発表できる機会は今後も継続が望ましい。 ・おもしろい！というチラシで初心者でも楽しめるかなと期待していましたが、“おもしろい”までには少し難しかった。長くて疲れました。もう少しコンパクトならツボも押さえられて良いのでは。
担当者コメント	<p>今年の演目は、団員の話し合いにより佐々木充郭作、「ねぼすけさん」に決定した。2011 年に開催された第 17 回劇作家協会新人戯曲賞において、最終候補作に選ばれた、戯曲としての評価が非常に高い作品である。アンケートにも、物語に対する感想や意見を書いたものが多かった。</p> <p>来場者数について、土曜日夜公演に比べると、日曜日昼公演の方が多くの来場があり、近年、その傾向が続いている。土曜日の夜公演を昼公演にすると来場者が増えるのでは、という見方もあるが、夜公演しか見られないという方も存在するので、しっかりと検討すべきである。</p> <p>近年森のホールで定期公演を開催してきたが、次年度は風のホールで行う予定である。事業の性格上、実質回収率が高くないことは仕方ないが、舞台委託料の見直しを図ることも必要だと感じる。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	長久手市合唱団ニューセンチュリーコーラス Nagakute 第16回定期演奏会
日時 / 場所	平成26年2月23日(日) 14時開演 森のホール
事業の種類	自主創造活動事業、提携事業
出演者	山本高栄(指揮者)、野々山雅子(ピアノ)、岩本拓郎(ピアノ)、松澤歩(ソプラノ) 西端祐哉(テノール)、小寺里枝(ヴァイオリン)、藤中達哉(フルート) Ensemble Famille Voix(合唱)、ニューセンチュリーコーラス Nagakute(合唱)
内容	hamony town 長久手(coba作曲、松本洋(H&M)・河村彩乃作詞) オペラ・ガラスステージ～イタリアのオペラ作品から、オレンジの花はかおり (P.Mascagni作曲)行け、わが想いよ 黄金の翼に乗って、乾杯の歌(G.F.Verdi) 混声合唱組曲北へより(松下耕編曲) ピアノのための組曲より雨ニモ負ケズ(千原英喜作曲、宮沢賢治作詞) 混声合唱組曲唱歌の四季より(三善晃編曲) 混声合唱組曲みずのいのちより(高田三郎作曲、高野喜久雄作詞)
席設定	675席
入場者数	496人
入場率	73.48%
チケット発売日	一般 12月14日(土) フレンズ会員 12月7日(土)
チケットの種類及び価格	[前売] 一般:1,000円、フレンズ:800円 [当日] 一般・フレンズ 1,200円
鑑賞者評価	心にビタミンを頂きました。冬季オリンピックと同じような感動を頂きました。ありがとう(69歳/女性) 長久手住民で長く活動されていて応援したい。(60歳/女性)
モニター評価	盛りだくさんのプログラムでとても楽しいコーラスでした。(企画委員) オペラや日本の原風景から生まれた唱歌などすばらしい歌声とハーモニーに感動した。(教育委員) こんな大きなホールで発表会ができるのは皆さん1年間がんばって練習できますよね！指揮者が合間に説明をくださり、楽しく聞けました。(一般モニター)
担当者コメント	今年から自主運営に向けた取り組みが始まり、新しい指導者山本高栄先生をお迎えして、団の風土に新しい風を吹き込んでいただきました。今回の演奏会では声楽アンサンブル「Ensemble Famille Voix」の皆さんを友情出演というかたちでお迎えし交流することができ、長久手応援ソングをはじめ、唱歌の四季や水のいのちなど合唱の原点に立ち返った趣を感じることでできる合唱曲で新たな旅立ちをすることができました。最後には観客の皆様と一緒に「花は咲く」を合唱するシチュエーションがあり大変盛り上がりました。
備考	プレイベント ガレリアコンサート 平成26年2月2日(日)12時から 文化の家アトリウム

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	富良野 GROUP 公演 2014 冬 マロース		
日 時 / 場 所	平成 26 年 3 月 13 日 (木) 18 時 30 分開演 森のホール		
事 業 の 種 類	鑑賞事業		
出 演 者	富良野 GROUP 久保隆徳、森上千恵、加藤久雅、納谷真大、水津聡 他		
内 容	作・演出 倉本聰 マロース		
席 設 定	338 席		
入 場 者 数	277 人		
入 場 率	81.95%		
チケッ発売日	一般	1 月 18 日 (土)	フレンズ会員 1 月 11 日 (土)
チケッの 種類及び価格	[前売] 一般:4,500 円、フレンズ:4,000 円 [当日] 一般・フレンズ:4,500 円 全席指定		
鑑賞者評価	<p>・場面の切り換え、人生の切り換え、人生の思い入れ、ぶれない思い、これからの目標、みんな教えていただきました。素晴らしいの一言につきます。(50 代/男性)</p> <p>・新聞で、先生の記事を見てびっくり。すぐ電話してチケットをとりました。ぜひぜひこれからも富良野 GROUP に来てほしいです。(40 代/女性)</p> <p>・社会に提言する力強い舞台で大感激でした。(60 代/女性)</p> <p>・子どもと一緒に観せていただきました。子どもも場面がわかりやすく、集中してみていました。考えさせられます。(30 代/女性)</p> <p>・自分も演劇をやる身ですが、皆さんのようなすばらしい演技ができるようになりたいと、心の奥底から思いました。(10 代/男性)</p>		
モニター評価	<p>・素晴らしい舞台でした。最良のストーリーテラー。最後までぐんぐん引っ張りました。よくこの企画を文化の家に持ってこられました。ほぼ満席ですが、座席の一部がなぜかクローズでした。(ワーキンググループ)</p> <p>・久しぶりに、ガツンとココロにひびく舞台をみせていただきました。時間ギリギリに会場入りしましたが、ちゃんと席にたどりつけました。座席からは、ちょうど柱があって、舞台の左側がよく見えませんでした。(ワーキンググループ)</p>		
担当者コメント	<p>倉本聰氏が指導していた富良野塾を卒業した俳優を中心に結成された富良野 GROUP の公演。文化の家で公演を行うのは、平成 22 年 8 月の「歸國」以来。今回の作品は、平成 23 年に舞台作品として上演された作品の再演。関西等の公共ホールと連携することで、文化庁劇場・音楽堂等活性化事業に採択され、交通費等が補助されたことにより、招聘の難しい北海道の劇団の公演を実施することができた。また、コーディネートを行う、北海道演劇財団との提携事業として、互いに費用を負担しあうことで、経費を削減した。指定席の公演であり、準備の段階で、舞台や座席設定、見切れの対応に苦慮した公演であった。公害問題を隠そうとする、企業と行政、また見ぬふりをする地域の住民たちにより、野鳥の住処が奪われていく様を、異常気象と結び付け、白鳥が冬と春との季節を掌る「マロース(冬将軍)」であったとするファンタジーにより、鋭く問題提起した作品だった。また、「劇王」に 3 回出場した納谷真大氏が俳優として出演しており、地元の演劇関係者との交流を持つことができたことがよかった。</p>		
備考	公演前に、環境保護活動にも取り組む倉本聰氏と市長との面談を実施した。		

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	小林 大地 橋 寛憲 創造スタッフ展 「楽しい仕事」
日 時 / 場 所	平成 26 年 2 月 27 日(火)～3 月 3 日(日)
事 業 の 種 類	自主創造活動事業
出 展 者	橋寛憲(創造スタッフ)、小林大地(創造スタッフ)
内 容	作家の過去作の展示と、創造スタッフとして携わってきた仕事の紹介
入 場 者 数	733 人(展示室分のみ)
チ ケ ッ ト の 種 類 及 び 価 格	チケット・整理券なし 入場無料
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことのないような展覧会で、驚きの連続でした。 ・友人も来たがっていましたが、日程が合わず…。会期がもっと長いとありがたいです。 ・いろんなところに飾ってあって、途中から作品を探すのに夢中になってしまいました。
モニター評価	なし
担当者コメント	<p>文化の家創造スタッフ事業のPRの一環として、あまり表舞台に表れない美術系創造スタッフに焦点をあてるため、昨年度に初めて開催し、今回で2回目となる創造スタッフ展。前回は美術スタッフが橋氏のみであったため個展であったが、今回は新たな美術スタッフの小林氏を加え、2 人会を開催した。テーマを「楽しい仕事」とし、彼らが過去に制作してきた作品はもちろん、創造スタッフとして年間を通じて意欲的に取り組んできた仕事や作品を紹介した。彼らが創造スタッフ企画以外で関係した自主事業としては、「ながくてアートフェスティバル 2013」、「どしのぎ祭」、「フライブルク・バロック・オーケストラ」などがある。展示場所を展示室に限らず、ギャラリー、アトリビング棟、東テラスにも展示することで、幅広く人々に鑑賞していただくことができた。また、出展者がほぼ毎日在廊したことは、来場した人々にとって大変良いことであったと思う。ただし、会期については、展示規模からすると短めであったため、検討が必要である。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	平成 25 年度長久手市文化の家アートスクール講座発表会 戯曲セミナー優秀短編戯曲上演会 「紅(あか)、ややソフトな」
日 時 / 場 所	平成 26 年 3 月 15 日(土)19 時開演 風のホール
事 業 の 種 類	育成事業
出 演 者	<p>■第 1 話「教室」 作・山本史子 舟橋“委員長”慶子(シアターUNA! / 新人同盟)、大上羽純(演劇ている)、川上珠来(フリー)</p> <p>■第 2 話「スイカの種」 作・傍島利一 久川徳明(劇団翔航群)、山本史子(受講生/劇団 happy?)、日坂朱里(受講生)、ニシムラタツヤ(Afro Wagen)</p> <p>■第 3 話「さよならしようね」 作・山田直子 川上珠来(フリー)、古川聖二(オイスターズ)、足立和久(受講生)</p> <p>■第 4 話「父さんと海」 作・足立和久 西田亮太(劇団ジャブジャブサーキット)、空沢しんか(フリー)、中島緑(フリー)</p>
内 容	戯曲発表会
席 設 定	239 席
入 場 者 数	110 人
入 場 率	46.03%
チ ケ ッ ト の 種 類 及 び 価 格	無料
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・作家それぞれの世界観が良く表現されていたと思う。(21 歳/男性) ・普通の人に参加できるこのような企画があるとすごく良いと思う。(47 歳/女性) ・難しいと感じる話もあったが、どれも観終わるととてもスッキリするような話だった。音楽がどれも合っていて、清々しい気持ちで次の作品を観ることができた。とても落ち着いて、心地よい間がある芝居だった。(27 歳/女性) ・学生演劇を観ることが多かったが、成人のものは、短編といえどやはり完成度が高く、安心して観ることができた。中には難解なものもあったが、個人的にはメッセージ性が強いものが好きだ。(51 歳/男性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・戯曲セミナー発表会は初めて鑑賞した。現代劇は理解できないが、俳優がみな名演技で驚いた。
担当者コメント	<p>今回の公演では、4 作品が上演された。それぞれの作品に個性があらわれており、異なるテイストを楽しむことができた。上演に際しては、予算が限られているため、大道具はありもので工夫し、舞台スタッフも受講生や出演者が行っている。はせ氏の演出と、受講生に加え普段劇団で活動する役者も多数出演することから、この公演は入場無料の公演とはいえ、その質の高さに定評がある。今回、来場者数が 110 人と昨年(92 人)を大きく上回ったが、集客・広報面については、引き続き大きな課題である。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公 演 名	平成 25 年度長久手市文化の家アートスクール発表会 展示の部
日 時 / 場 所	平成 26 年 3 月 11 日(火)～16 日(日)10 時～17 時 展示室
事 業 の 種 類	教養事業・育成事業
出 展 者	平成 25 年度長久手市文化の家アートスクール受講生
内 容	絵画、子ども美術・造形、デッサン+アート
席 設 定	席
入 場 者 数	420 人(延べ)
入 場 率	-%
チケッ発売日	
チケッの種類及び価格	入場無料・整理券なし
鑑賞者評価	<p>・いろいろな題材をもとにした絵画があり、見るのが楽しかった。こうして自分や他の人たちの作品がてんじされる機会がありとてもよかった。子どものクラスの作品を見るのも新鮮で楽しかった。</p> <p>・友達のがたくさんありました。とてもにぎやかな作品でした。</p> <p>・いまのままでよいが、一層の充実を。</p> <p>・今後もアートスクールを続け、発表できる場も提供されると、とても良いと思う。</p>
モニター評価	<p>・全体を通じて、年齢、技術など層の厚さにあらためて驚きました。関係の方のご努力があり、文化活動が、輝いてくると思います。(ワーキンググループ)</p> <p>・アートスクールの募集の際に、発表会までが企画であることをちゃんと伝えてください。搬入日に作品を持ってこなかったり、搬出の時に来ないのが残念。親にとって作品はあまり興味のないものかもしれませんが、子どもにとっては大切な作品だということを、参加者の親にも理解していただけないものではないでしょうか。(ワーキンググループ)</p> <p>・小さな子どもたちが楽しんでスクールに行くのが目に浮かぶようでした。大人の方もそれぞれに作品作りに張り合いを持ってなさって、いろいろな題材で楽しく見ることができました。(一般公募モニター)</p>
担当者コメント	<p>「絵画」、「子ども美術・造形」、「デッサン+アート」、それぞれ前期分、後期分の受講生の作品を展示した。美術系アートスクールの講座として、他に「絵本」講座を開講したが、前期のみであったことから、講師の加藤氏の主催する名古屋市内のギャラリーでの展覧会に含ませる形で発表の場を作った。社会人や学生の参加を狙い、土曜日に新たに開講した「デッサン+アート」は、まずまずの需要があると感じた。「絵画」「デッサン+アート」の講座は、設営日に、講師と受講生が集合して、一斉に展示を行った。展示室の 4 辺ある壁面の内、2 辺を「絵画」、1 辺を「子ども美術・造形」、1 辺を「デッサン+アート」とし、中央の床には「子ども美術・造形」で制作した「絵画」が並んだ。講師の引き出しの多さ、作品づくりの面白さを感じさせ、カラフルな作品たちが並び、気力の溢れるエネルギッシュな展覧会となった講師の意向で搬入・搬出、キャプションの取付けを受講生全員で行うようにし、実際の展覧会は作品を作って終わりではない、ということを示した。「子ども」は小学6年生までを対象とした講座であるが、搬入日に作品が集まらなかったり、展示会終了後も作品を引き取りに来ないようなことが多いことが課題である。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	平成 25 年度長久手市文化の家アートスクール発表会 舞台の部
日時 / 場所	平成 26 年 3 月 16 日(日)13 時開演 森のホール
事業の種類	教養事業・育成事業
出演者	平成 25 年度長久手市文化の家アートスクール受講生・講師等
内容	フルートアンサンブル(初級者向け)・フルートアンサンブル(中級者向け)、チェロアンサンブルの愉しみ、クラシックギター、ジュニア弦楽アンサンブル講座、子どもクラシックバレエ(小1・2)・子どもクラシックバレエ(小3～中学生)・大人クラシックバレエ
席設定	517 席
入場者数	512 人(延べ)
入場率	-%
チケット発売日	
チケットの種類及び価格	入場無料・整理券なし
鑑賞者評価	<p>・このような催しを継続してください。(40 代/男性)</p> <p>・演奏の前に曲名の紹介がフルートはあったが、チェロは無かった。(60 代/男性)</p> <p>・もう少し各ステージの演奏を聞きたいというのが正直な感想です。(50 代/男性)</p> <p>・ジュニア弦楽で一緒に口ずさんでくださいというコメントがあったが、声を出す勇気のある人は普通はいない。歌えるムードをつくってください。</p>
モニター評価	<p>・年齢もいろいろでレベルも様々、1年という短い期間でよくここまで仕上げられた。参加者の家族の方がお客様としておみえになっていますが、他の方には知られていない。途中入場の際、舞台から正面の出入口はやめた方がいい。おそらく舞台からみて一番気になる出入口かと思われます。(ワーキンググループ)</p> <p>・草の根文化推進活動として、改めて文化の家の役割、使命の大切さと関係者の方々の日々のご努力を称賛させていただきます。(ワーキンググループ)</p> <p>・力に差があって教える先生は大変でしょうが、初心者は上手になろうと張り合いがありますね。もっとたくさんの講座があってもいいなと思いますが、大変でしょうか。(一般公募モニター)</p>
担当者コメント	<p>文化の家の受講者を募集しているアートスクールの発表会。前任者が退任したフルート講座は、新たな講師を迎えての初めての発表会となった。前年度から開講した、チェロやギターの講座も定着しつつある。名物ともいえる、バレエ講座での伴奏は、すべての曲をジュニア弦楽アンサンブル講座の受講生が生演奏で行った。昨年度限りで大人向けのヴァイオリン講座が独立したため、受講生の人数は少なくなったが、客演を迎え、無事やりとげた。ただし、子ども中心のメンバーであるため、受講生自ら設営等を行うことや連絡体制などで難しいことが課題である。この発表会をきっかけに新たな受講生の募集、広報に結び付けたいが、来場者の多くは出演者の家族や友人であり、それ以外の方の来場には結びついていない。年度末に、受講希望者から、講座のレベルや雰囲気を知りたいという問い合わせが多くあるが、既に発表会が終了しており、体感することができないという状況にある。上演中のフラッシュ撮影やビデオカメラの光線の使用が多く苦言も寄せられた。スタッフが随時客席で注意した。</p>
備考	

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	室内で聴こうシリーズ!2013【クラシック編】 カルテットの魅力は一生モノ!
日時 / 場所	平成 25 年 7 月 10 日(水)～平成 26 年 3 月 13 日(木) 展示室および美術室
事業の種類	鑑賞事業
出演者	①・③ Amber Quartet 久米浩介(第1ヴァイオリン)、佐藤奏(第2ヴァイオリン)、高木真悠子(ヴィオラ)、荒井結子(チェロ) ②・④ 澤田幸江(第1ヴァイオリン)、鈴木崇洋(第2ヴァイオリン)、小坂ゆかり(ヴィオラ)、高木俊彰(チェロ) 全公演共通 山田亮(ナビゲーター/文化の家創造スタッフ)
内容	①7/10(水) 展示室 W.A.モーツァルト 弦楽四重奏曲 第19番 ハ長調 K.465「不協和音」 ②10/10(水) 展示室 ラヴェル 弦楽四重奏曲 ヘ長調 ③12/26(木) 美術室 ショスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲 第3番 ヘ長調 作品73 ④3/13(水) 美術室 シベリウス 弦楽四重奏曲 ニ短調 作品56「親愛なる声」
席設定	各 70 席
入場者数	①60人 ②62人 ③52人 ④57人
入場率	①85.7% ②88.6% ③74.3% ④81.4%
チケット発売日	一般 5月11日(土) フレンズ会員 5月4日(土)
チケットの種類及び価格	[前売] [当日] 共通 4回通し券:3,000円、1回券:1,000円
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブのカルテットを聴くのは初。本当に感動しました。(60代/女性) ・4人の呼吸を計りながらの演奏が楽しかった。(60代/男性) ・初めてのショスタコーヴィチで大変興味深く味わうことができた(50代/男性) ・料金設定について、安いと思いますが広く皆さんに音楽に親んでもらうには良いと思います。本物の音を生で聴けることはとてもいいチャンスだと思います。(50代/女性) ・シベリウスのマニアックな選曲がよかったです。(40代/女性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・山田さんのナビゲーターによる曲解説、4人の演奏者の生の声も聞くことができ、曲に対する理解も深まりました。(一般モニター) ・「JAZZ IN THE ROOM」もそうですが、最近の文化の家の自主事業はイベント(トーク)として事前の解説があり、丁寧で観客目線の良質な取り組みで大変良いと思います。(一般モニター)
担当者コメント	平成 23 年度、24 年度に引き続き「室内で室内楽を聴こう！」をコンセプトに 4 回シリーズとして公演を行った。今回のシリーズでは、2 組のカルテットがそれぞれ 2 回ずつ公演を担当した。1 組は愛知県立芸術大学卒業のヴァイオリン奏者久米氏が率いるカルテット。1 組は平成 23 年度にも登場し、好評を受けたヴァイオリン奏者澤田氏をはじめとするカルテット。小さな空間で間近にカルテットを聴けること、全楽章取り上げられることが少ない楽曲を取り上げたことが好評を得た。入場者数は昨年度とほぼ同程度にとどまっており、客層も固定化してきている。次年度以降は新規顧客が増えるような対策をとっていきたい。

長久手市文化の家自主事業報告書

公演名	室内で聴こう!シリーズ 2013【JAZZ 編】 JAZZ IN THE ROOM
日時 / 場所	平成 25 年 7 月 24 日(水)～平成 25 年 12 月 18 日(水) 光のホール・風のホール・音楽室
事業の種類	鑑賞事業
出演者 内容	6/9(日) 14 時開演 光のホール イベント/レクチャー「さあ、ジャズを聴こう!」 講師:山東正彦(内田修ジャズコレクションディレクター) vol.1 7/24(水) 17 時開演 風のホール 楽しく JAZZ 夏!～家族みんなでスウィング! 倉田大輔(ドラム)、砂掛康浩(ギター)、後藤浩二(ピアノ)、徳田智史(ベース) vol.2 9/11(水) 20 時開演 音楽室 レジェンド～80 歳地元の JAZZ MEN～日本のブルースギタリスト 森田利久(ギター)、太田邦夫(ピアノ)、多湖一博(ベース)、黒田和良(ドラム) vol.3 11/13(水) 20 時開演 音楽室 秋の夜長～ピアノトリオと夜更かし 渡辺ショータ(ピアノ)、若井俊也(ベース)、柵木雄斗(ドラム) vol.4 12/18(水) 20 時開演 音楽室 クリスマス JAZZ!～良いお年を! 今岡友美&Dear Blues 今岡友美(ヴォーカル)、中嶋美弥(ピアノ)、名古屋一也(ベース)、山下佳孝(ドラム)
席設定	6/9:50 席 7/24:211 席 9/11:72 席 11/13:71 席 12/18:76 席
入場者数	6/9:50 人 7/24:211 人 9/11:65 人 11/13:57 人 12/18:66 人(全公演完売)
入場率	6/9:50.0% 7/24:75.3% 9/11:90.2% 11/13:80.3% 12/18:86.8%
チケット発売日	一般 5 月 11 日(土) フレンズ会員 5 月 4 日(土)
チケットの種類及び価格	[前売] [当日] 共通 各回 1,000 円 ※vol.1「楽しく JAZZ 夏!」のみ 4 歳から中学生は 500 円
鑑賞者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・北中学校の「であーと」では聴けなかった曲があつてとてもおもしろかつたし、楽しかつたです。(10 代・市内・女性) ・照明が明るすぎ、雰囲気半減してしまう。ジャズなので工夫がほしい!(60 代・市内・男性)※複数あり ・完売が早すぎる。席をもっと多く、価格をもっと高くしてもよいと思う。(60 代・市外・男性)※複数あり ・地元こんな魅力的なジャズ歌手がいることは知らず、これからはライブも行ってみたいです。(50 代・市内・女性)
モニター評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の夜を有意義に過ごせて良い。小さな空間というのが良いが、座席間が狭く気持ちがゆつたりしない。(企画委員) ・年齢層が高く、男性が多かつたせい会場内のニオイが気になりました。(一般モニター)
担当者コメント	昨年度に引き続きライブハウスのような「小さな空間でジャズを聴く」をコンセプトに4回のコンサートを実施した。ジャズのライブ感を体験することができ、地元出身のジャズプレイヤーを知ることができる公演という期待の高さから、ほとんどの公演が公演前に完売した。鑑賞者・モニター評価にもあるように、会場の環境面に関しては改善する余地がある。ホール公演の回数を増やしたり、音楽室公演では座席数を減らし、照明を工夫するなど、ゆつたりと落ち着いてジャズを楽しむことができる環境づくりを目指したい。